

第4回「キャリア教育アワード」受賞団体

【大賞】（最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞した3団体より選出）

○岩村田本町商店街振興組合

「商店街初！岩村田商店街が実施する、支援の必要な子供たちのための自立支援プログラム」

【最優秀賞（経済産業大臣賞）】

（大企業の部）

○ソニー生命保険株式会社「ライフプランニング授業」

（中小企業の部）

○岩村田本町商店街振興組合

「商店街初！岩村田商店街が実施する、支援の必要な子供たちのための自立支援プログラム」

（地域企業協働の部）

○アイシン精機株式会社・アイシングループ「アイシン環境学習プログラム」

【優秀賞】

（大企業の部）

○アクセンチュア株式会社コーポレート・シチズンシップ「若者の就業力・起業力強化」チーム
「若者の就業力・起業力強化」プログラム

○株式会社ダスキン「学校掃除教育支援活動～みんなでつくろう キレイをいっしょに～」

（中小企業の部）

○特定非営利活動法人 G-net「ホンキ系インターンシップ（長期実践型インターンシップ）」

○橋本産業株式会社「nEQを活用しインターンシップを通じての社会人基礎力の向上」

（地域企業協働の部）

○株式会社 Campanula「産・学・NPOがスクラムを組んだ～Jobstudy.jpプログラム～」

○特定非営利活動法人鳳雛塾「出店・製造販売体験プログラム」

【奨励賞】

（大企業の部）

○積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト
「積水化学 化学教室プログラム」

○一般社団法人ディレクトフォース「授業支援の会」

○株式会社野村総合研究所「NRI IT戦略体験プログラム」・「便利を支える情報システムの秘密」

（中小企業の部）

○特定非営利活動法人国際社会貢献センター「豊富な国際ビジネス経験に基づいた大学・大学院講座」

（地域企業協働の部）

○ジョブスタディ（運営事務局：コクヨ株式会社）

「企業の人事担当者が手作りで創る異業種合同セミナー「ジョブスタディ」」

○中高生夢チャレンジ大学実行委員会「中高生夢チャレンジ大学」

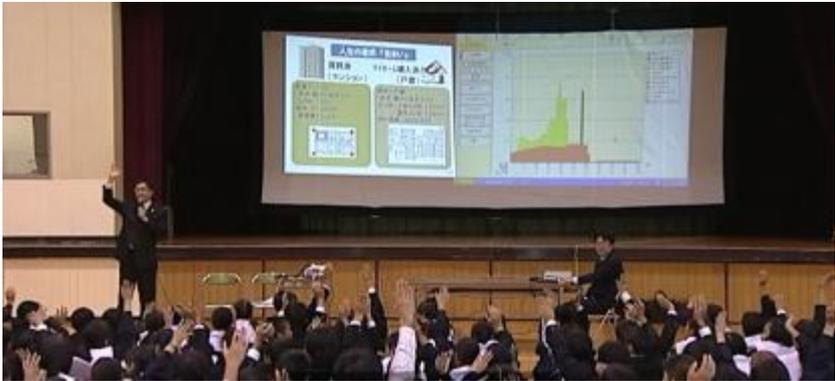
【大賞・最優秀賞（中小企業の部）】

企業・団体名	岩村田本町商店街振興組合	
プログラム名	商店街初！岩村田商店街が実施する、 支援の必要な子供たちのための自立支援プログラム	
活動の内容	<p>当組合には直営の自立学習型の学習支援施設「岩村田寺子屋塾」（幼稚園の年長生から高校生）及び、学校法人鹿島学園高等学校通信制の佐久サポート校という機能がある。その2つの機能を駆使して、不登校、引きこもり、発達障害など様々な問題を抱える子供達の「自立を促すプログラム」として、策定。</p> <p>1、基礎学力支援（個々の能力に合わせた学習支援）・・・岩村田寺子屋塾で実施 対象：支援の必要な 小中高生</p> <p>2、自立のための就業支援プログラム・・・ 対象 支援の必要な高校生または16歳以上の方</p> <p>①ビジネスマナー習得支援・・・商店街にあるマネジメント会社で指導 電話対応、接客位の基本などを地域にいるプロのマネジメントから学ぶ。</p> <p>②就業支援 能力や個性に応じた「就業体験」を実施して、「自分でできる」を体感させて自信をつける。状況が許せば、そこでの非常勤雇用機会を作っていただく・・・商店街の各店舗で実施</p> <p>③商店街のイベント参加プログラム 商店街で実施する様々なイベントに参加させることで、色々な場面に遭遇させ自分の能力を実感させ、「できる」自信をつけさせる。</p> <p>3、通信制高校での履修を通して高校卒業資格を取得させる。 以上のプログラムを通して、高校卒業の社会への自立を「地域コミュニティ」として支援する。</p>	
		<p>① 7月祇園祭での出店風景 子供相手のヨーヨーつりを担当、 収益で自分たちのオリジナルポロシャツを誂えた。</p>
		<p>②就業体験 商店街の酒蔵がもつ、芋畑での収穫作業。</p>

受賞理由

- 商店街振興組合による学習支援のための商店街直営塾の開設・通信制サポート校の運営をはじめ、商店街が一体となり、その資源や人材を活かした取組を展開することで、社会参加に困難を抱えている子供のための自立支援を地域ぐるみで実施している点を高く評価したい。
- 基礎学力向上、ビジネスマナー講座、就業体験、商店街のイベント参加と必要なプログラムが盛り込まれ、学習支援とうまく組み合わせるかたちで就業体験プログラムを実施しており、仕事をするために必要な能力が身につけられる内容になっている点も評価できる。
- 地域の人材育成事業として貴重な示唆を与える取組として期待される。

【最優秀賞（大企業の部）】

企業・団体名	ソニー生命保険株式会社	
プログラム名	ライフプランニング授業	
活動の内容	<p>仮想の家族を想定して、みんなでその家族のライフプランニングを考える、ワークショップ型の授業。現役のライフプランナーが関わることで、ライフプランニングの楽しさ（ゲーム性）だけでなく、現実のライフプランを考えるリアリティ（現実性）も受講者に提供している。当社独自のシミュレーションソフトを活用し、ライフプランという長期的なスパンから、仮想家族の将来の収入や支出を検証することで、自分の人生を俯瞰的に捉える視点を養い、来るべき人生の選択をどのように考えるのか、その結果、いかにして将来の夢を実現させるのか、といったテーマについてもヒントを得ることができる。受講者からは「人生の計画を立てる大切さ」「日々の過ごし方を見直したいという気持ち」「親への感謝の気持ち」が感想として多く聞かれる。</p>	
		<p>《グループワーク形式》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、仮想家族のライフプランを考えていく。1枚の大きなライフプラン表を作成する。生徒たち全員で家族の夢や、やりたいことを出しあったのち、決めたこと書き込んで、シールを貼り、夢をどんどん「見える化」していく。
		<p>《大教室形式》</p> <p>全体で、仮想家族のライフプランを考えていく。いくつかの選択肢から、グループで話し合いをしながら、選択のポイントなど、理解を深めていく。</p>

受賞理由

- 生命保険会社ならではのノウハウを活かし、将来の目標・ライフプラン、という長期的にキャリア形成のベースとなる部分について、早期から意識させ、そのための実際の社会でのあり方について考えるきっかけを提供している。また、単元の狙い等を踏まえたさまざまなシミュレーションに取り組みさせることで、児童生徒の長期的な視点での成長も期待できる内容である。
- 企業側の思いだけでなく、教育者が企業に求める協力内容を意識し、学習指導要領を踏まえ学校のニーズ・教育活動に即して、キャリア教育にふさわしい学習プログラムを提供している。
- 講師の意欲や能力の向上を図るための研修等、工夫を凝らしている。
- 年齢に応じたプログラムや少人数（グループワーク）、大教室形式等、プログラムの開発・改善を実現している。大教室方式での授業を実施することにより、より効率的に実施機会を拡大している。44都道府県で展開し、年間100校に及び実施実績は汎用性、普及性の点においても優れていると評価。

【最優秀賞（地域企業協働の部）】

企業・団体名	アイシン精機株式会社・アイシングループ
プログラム名	アイシン環境学習プログラム
活動の内容	小学4～6年生を対象に1年間から半年間、森・水辺・くらし・産業の4つのテーマから選んでもらい、学校の授業計画と合わせながら、それぞれの学校での環境学習をサポート。「講座（座学）またはフィールドワーク（体験）」、ワークショップ（愛・シンパシーワークショップ）、環境活動（エコアクション）、学習発表会（エコトークセッション）という一連のプログラムを通じて、児童たちは命の大切さや相手の立場に立って考えることを学ぶ。そして課題解決に向けた行動を学年みんなで起こしていくことで、何かのために学び、行動することの楽しさや、自己の可能性に気づき、社会人基礎力を身につけていく。



環境学習で学んだこと、感じたことを基に自分でエコアクションを考え、グループで取組む。給食を残さず、食べきったときの様子。



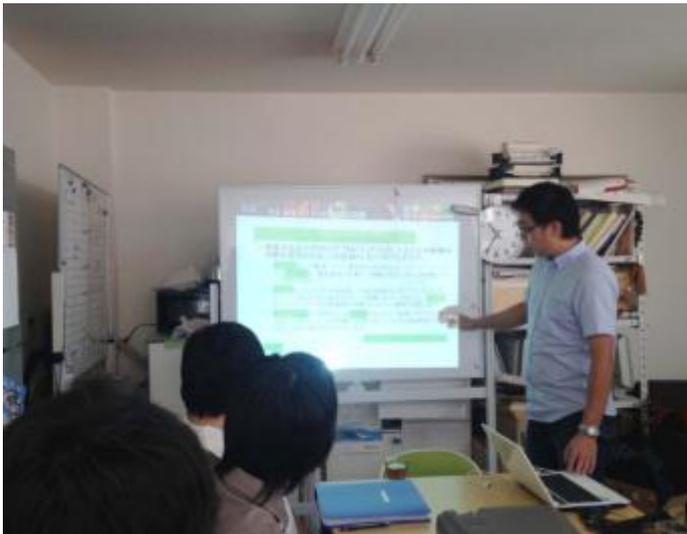
エコトークセッションで、劇を通じて活動内容を発表している様子。

受賞理由

- 単発の学校への出前講座ではなく、学校の教育課程を踏まえた上で、年間を通じた継続的な学校支援プログラムとして実施している点を評価したい。
- カリキュラムの組み方に工夫がみられ、環境学習という視点で作成されたプログラムの完成度が高く、教育効果が十分に期待できる。
- 参加する企業、自治体、学校数が増えており、プログラム自体が普及している。汎用性・持続性のため、講師養成もフローの一環としているところが素晴らしい。こうしたプログラム内容であれば、学校間、教師間でも意見交換し、プログラム内容がブラッシュアップされ、循環しやすい内容だろうと推察される。

【優秀賞（大企業の部）】

企業・団体名	アクセント株式会社 コーポレート・シチズンシップ 「若者の就業力・起業力強化」チーム
プログラム名	「若者の就業力・起業力強化」プログラム
活動の内容	現在、日本では若年層（15歳～34歳）の失業率が全体と比べて2倍程度となっており、大きな社会問題となっている。これからの社会の担い手である若者が安定した仕事に就けないことは日本全体のマーケットの縮小につながっていく。これを阻止し、若者が希望を抱けるような健全な社会にするために、若者に就労体験をしてもらい職業観を身に付けてもらう「就労教育」、若者に対するスキル支援を実施し雇用側とのミスマッチを解消する「就労支援」、および若手の起業家を育成し雇用そのものを創出していく「若手起業家育成」、という複数のアプローチを行い、新たなイノベーションによる就労機会の創出を目指す。



「若者のためのITアカデミー（CTAC：Computing Technology Academy）」の授業風景。IT基礎スキルや資格取得のみならず、ITそのものに興味を持ってもらえるように、コンピュータの分解・組立やOSの操作などの実習を取り入れている。



Webプラットフォーム：ユースアクティベーション（<http://www.siya.jp/>）の画面。左図の画面は、就労支援・就労教育に関する対策を全国規模で可視化し、それぞれの地域の市民へ情報を提供。右図の画面では、各地域で実施されている取り組みに対し、地域市民が資金支援ができる仕組み（クラウドファンディング機能）を提供している。

受賞理由

- 若者の就業力、起業力という今日的課題に、行政主導によらず様々な支援団体と連携し、地域社会の力を活かし真正面から取り組むもの。進路未決定卒業生・早期離職者に向けた中間就労の提供や、起業家支援が難しい現状に対しての挑戦的な回答の一つであると感じる。
- クラウドファンディング機能を備えたWebプラットフォームには将来性を感じる。
- 被災地における若手起業家育成事業支援はじめ、15才以上の年齢若年層に起業家育成の視点での様々なセミナー、イベント等の実践は高く評価できる。

【優秀賞（大企業の部）】

企業・団体名	株式会社 ダスキン	
プログラム名	学校掃除教育支援活動 ～みんなでつくろう キレイをいっしょに～	
活動の内容	<p>ダスキンでは「喜びのタネをまこう」の経営理念を実践し、「お掃除の会社」として、お役立ちできる教育貢献活動に取り組んでいる。</p> <p>「掃除の大切さを次世代を担う子どもたちに伝えたい」「掃除を通して子どもたちの力を伸ばしたい」そんな想いを込めて、</p> <p>①小学校対象の出前授業 キレイのタネまき教室「そうじについて学ぼう！」</p> <p>②教員向けセミナー「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」を実施。</p> <p>学校掃除サポーター制度という社内研修制度を取り入れ、ダスキンファミリー（本部と加盟店）で取り組む掃除教育支援活動。</p>	



子どもたちが家庭生活の中で、掃除についてあらためて考えるきっかけになり、また掃除への興味・関心を持ち、掃除の大切さを理解してもらおう授業。

【一部】 どうして掃除をするのだろうか

【二部】 正しい掃除用具の使い方の二部構成。講師にそうぎんの握り方から指導してもらっている。



①学校掃除に関する基礎知識を学び ②掃除実習を体験 ③掃除の教育的効果を考え ④掃除教育カリキュラムを紹介 ⑤掃除活動計画を考える

学校掃除に関する基礎知識や指導方法などを学んでもらう。どうやって子どもたちに、そうぎんの絞り方を説明すると理解してもらえるか。体験しながら考え、情報共有する。

受賞理由

- 学校での掃除の時間を貴重な社会教育の時間として捉え直し、掃除のプロであるダスキンのネットワーク、人材を活用した事業の展開はユニークである。掃除時間の活用という点で、学校のニーズにもよく応えている取組である。
- 講師育成用研修プログラムが確立しており、教員向けのセミナーも実施している点において、企業としての長期的で、継続性を見込んでの取組となっており評価できる。教育支援カリキュラムが小中学校のどの学年にも応用できることで完成度の高さを感じる。
- 掃除という学校でも身近な内容を教材に取り上げられているとともに、「学校掃除を通して伸ばしたい習得目標」シートがわかりやすく、学校で導入するにあたって、よい契機となると考えられる。

【優秀賞（中小企業の部）】

企業・団体名	特定非営利活動法人 G-net
プログラム名	ホンキ系インターンシップ（長期実践型インターンシップ）
活動の内容	1ヶ月半～6ヶ月の長期にわたり、魅力的な地域の中小企業経営者のもとで実践型の就業体験をする「現代版弟子入り」プログラム。実践型であることにこだわり、インターン生には企業の新規事業など、いちプロジェクトを担ってもらう。地域に愛着を持ち、地場産業・中小企業への関心が高く、そして何よりも主体性をもった前向きな若者を育てることを目的としており、参加学生は自ら設定した目標への挑戦、また受入企業での実践的な仕事へのコミットを通して、主体的な思考、行動特性を身につけることができる。インターン期間中には、多くの「仕事を楽しむ」「挑戦しつづける」大人との出会いがあり、それが自らの職業観や人生観を考えるきっかけにもなっている。



インターンフェアの様子：受入企業経営者によるプレゼンテーション

単なる企業紹介だけでなく、インターン生に任せるプロジェクトの内容、またそのプロジェクトを担う学生への期待を経営者自らプレゼンテーションする。



受入企業例：山川醸造株式会社

学生：沖侑香里（愛知大学）

（インターン期間：2011年3～9月）

伝統の醤油蔵元でファン拡大に向けて取り組むインターン。

インターン全国大会（地域仕事づくりチャレンジ大賞 2012）にも出場し優秀賞を受賞。

受賞理由

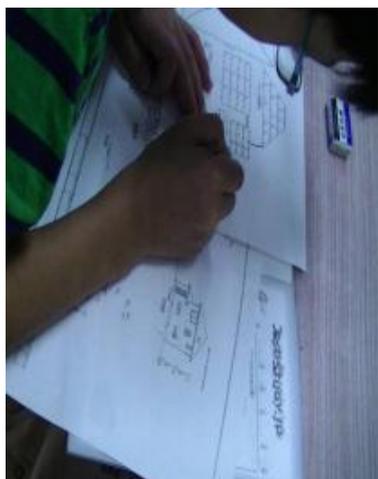
- 地域の企業・大学がお互いのメリットを活かしながら連携し、長期実践型インターンシップに取り組み、将来の地域を担う人材育成や地域活性化に貢献している。
- 企業毎に担当コーディネーターを置くことでリーガルチェックをし、労働だけではなく人材育成が目的であることを十分確認した上で、地域と学生をつなげ、企業と学生間の調整を円滑にし、長期のインターンシップの中でより効果的なプログラム進行ができるようになっている。
- また、この取り組みをモデル化し、他地域へと展開をみせている点も評価できる。単位認定も32校で実施している。

【優秀賞（地域企業協働の部）】

企業・団体名	株式会社 Campanula（カンパニユラ）
プログラム名	産・学・NPO がスクラムを組んだ～Jobstudy.jp プログラム～
活動の内容	<p>◆(株)Campanula（カンパニユラ）がコーディネートする体験型キャリア教育プログラム。学校と企業の橋渡しを行い、地域全体でキャリア教育を実施。</p> <p>◆教育的視点を重視しつつ、参加企業の社員は学校での教育（授業・指導）を行う前に「仕事の社会的役割、仕事の必要性、その仕事をするのに必要なこと（その仕事に就くために今の自分（小学生・中学生）が勉強しておくべきこと）」を説明できるような事前研修を受講。その後学校指定の教育実施日に、学校へ出向き授業を行う。これらにより当該企業の社員教育（研修）という側面も併せもつ。</p> <p>◆子どもは体験内容が記録できる専用のノートを持ちまわり、企業が説明する内容や実施後の感想をノートに記録。職業体験日を授業参観日に合わせことを推奨。子どもや企業の社員だけでなく、先生や保護者も一緒に職業について学べるキャリア教育プログラム。</p>



株式会社ヒューマンライフ
 中学 1 年生を対象。コールセンター業務を体験指導。実際の電話機を教室に持ち込み、お客様側、スタッフに分かれ電話対応をシミュレーションする。電話の内容は企業がシナリオを作成。お客様に商品を注文してもらい、名前を「権堂です。権利の権にお堂の堂です。」のように漢字を分けて説明し名乗る。子ども達は仕事の内容だけでなく、国語力も必要であることを学ぶ。



創伸テクニカルサービス株式会社
 小学校 6 年生を対象。ソーラーパネルの配置と費用計算を体験指導。企業が簡易的な設計図を用意。屋根の形を参考にパネルの配置と費用の計算方法を簡単に説明。その後、子ども達が自由に設計図へ配置するパネルを書き込んでいく。設計図には方位が記載。この方位はあえて説明せず、子どもに気づかせる。子ども達は、この仕事には方位、図形の組み合わせ、計算力などの知識が必要であることを気づかせる。

受賞理由

- キャリア教育と社員教育を効果的にリンクさせることにより、WIN-WIN の関係を築き、持続的な活動となっている。また、子供や企業だけでなく、先生や保護者も職業学習ができる機会の提供、企業の社員教育という副次的効果もある点を評価したい。
- 小中高の各段階に合わせ、NPO・地域企業等との連携により、教室に「仕事体験」を持ち込んだ職業体験プログラムとなっており、広く多様な職業について考える機会を与えている。
- なかなか効果が見えにくい取組に対して、一定の定量効果を見せている点が評価できる。事前学習、事後学習も企画段階からよく練りこまれていることがわかり、他の地域で実施する際の選考事例としてとても参考になる。

【優秀賞（地域企業協働の部）】

企業・団体名	特定非営利活動法人 鳳雛塾
プログラム名	出店・製造販売体験プログラム
活動の内容	市場調査から商品仕入れ、値付け、広報活動、事業計画作成、商売実践、収支決算に至までの一連の企業活動をケース教材等を用いて学びながら、地元商店街や佐賀駅等での販売体験活動を実施する。小学生向けプログラムでは、出店販売体験活動（キッズマート）の実施が主となるが、中学生や高校生向けのプログラムでは、より専門的な知識の習得と「商品開発」（＝企画）を付加した教育メニューとなっており、マーケティングや商品企画の考案、協力企業の指導によるオリジナル商品の開発、就業体験（インターンシップ）等も行う内容となっている。



小学校での販売体験活動の様子。
 次年度販売体験活動をする下級生はお客さんとして体験をする。
 普段なかなか声を出せない児童もこの日ばかりは大きな声を出して「いらっしゃいませ」と呼び込みをする姿が見られる。
 店舗のレイアウトは児童達が考えたもので、テーブルクロスや籠を準備して工夫を凝らしている。



中学校での企業ヒアリングの様子。
 自分たちの取扱いたい商品、思いを企業に説明し、企業からアドバイスを頂く。自分たちの計画通りには進まない事も多く企業との打合せをしながら商品が決まっていく。企業へのアポイントの電話等も生徒自ら緊張しながら行う。

受賞理由

- 体系的・本格的なプログラムであり、事前学習を中心にプログラムの作りこみがしっかりしていることに加え、地域の協力を上手に引き出しており、企業活動に対する理解が深まる内容である。
- 小・中・高にに応じて事業の一連の流れ(起業から決算まで)を体験できるプログラムとなっている。特に、小中学校でのプログラム内容が発達段階に応じた工夫がなされている。

【奨励賞（大企業の部）】

企業・団体名	積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト
プログラム名	積水化学 化学教室プログラム
活動の内容	<p>積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクトでは、研究所の地元中学校を対象に「出張授業『化学教室』」を、各地域の工場を中心に「子ども向け地域イベント」を実施している。</p> <p>出張授業は、教員と研究所員が協働で、単元と連動したわかりやすいプログラムを開発し、化学分野では中1（3時限）、中2（2時限）、中3（2時限）を、生物分野では中2（1時限）を実施している。</p> <p>出張授業、地域イベントのいずれであっても、企業ならではのオリジナル実験や社員講師からの解説を通じて、化学への興味・関心を高め、理科学習と社会とのかかわりを実感できる内容をめざしている。</p>



●地域イベント

「われない?! 不思議なしゃぼん玉」
水に溶ける性質のプラスチックがあることを
演示で示す様子
(アメリカでの教室にて)



●出張授業

中学1年生 理科
「プラスチックを調べよう」
プラスチックの種類と、その性質について確
かめる実験の様子

受賞理由

- オリジナルな実験の工夫や社員講師による「化学教室」は、企業の特性をよく活かしており、理科・化学分野への児童・生徒の関心を喚起し、学校・教員との信頼関係の構築と意見交換をうまく生かしているプログラムである。継続して学校に関与することで、導入に向けた学校での親和性が高くなるなど、工夫・研究される姿勢を評価したい。
- 「学ぶ意欲の向上」はキャリア教育の課題の一つであり、そのために学習の動機付けが大きな課題である。その観点から、この取組に期待する。将来の日本を牽引する理系人材の育成の観点からも評価できる。
- プロジェクトメンバーのモチベーションを高める企業総がかりの仕組み作りが素晴らしい。

【奨励賞（大企業の部）】

企業・団体名	一般社団法人 ディレクトフォース
プログラム名	授業支援の会
活動の内容	<p>ディレクトフォースは約600名の元上場企業の役員が構成する団体であり、この中でキャリア教育に関心を持つ約20名が、主に高等学校を中心に「グローバル化の中で考えるあなたの未来」「大学後の社会、働く事を考える」などを中心に、若者の将来へ参考となる講話を実体験に基づき実施している。</p> <p>2013年は既に21校を越える実績があり、講演方式も通常の講話に加えパネルディスカッションやワークショップなど学校側の希望に沿って内容と共に工夫している。また講演後も追加質問があればこれのフォローも行っている。</p>



（東京都立昭和高校パネルディスカッション
2013年7月8日 福生会館



千葉県立君津高校での講演 2013年1
1月11日 体育館

受賞理由

- 実社会の第一線でのさまざまな活躍・経験を元に、具体的な課題をどうクリアしてきたか、将来のビジョンを児童・生徒にイメージしやすい形で伝えるとともに、事前の学校との十分な調整を踏まえ、ワークショップや質疑応答の中で当該学校の児童・生徒に、自ら考え、今後につなげる方向性を示している点を評価したい。
- 小、中、高と広い範囲で発達年齢に応じた形で柔軟性を持った講演、パネルディスカッション等の企画も評価できる。
- 実際に海外赴任を経験した講師からの授業によって生徒たちの国際感覚を養い、グローバル社会で活躍できる人材の育成に資するプログラムとなっている。

【奨励賞（大企業の部）】

企業・団体名	野村総合研究所	
プログラム名	NRI IT 戦略体験プログラム	
活動の内容	<p>●目標</p> <p>①中高生の発想は身近な会社や職業（BtoC）に限られているが、企業や官公庁が顧客の会社（BtoB）が世の中に多く存在していることを知らせ、職業選択の幅を広げる機会を提供。②情報サービス産業やシステムエンジニア（SE）に対する職業としてのイメージ向上を図る。</p> <p>●概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：中学3年生～高校3年生（チーム対抗ワークショップ） ・所要時間：2時間 もしくは 3時間 ・ストーリー：中堅コンビニチェーンの利益向上を情報システムを活用により、業界トップクラスを目指す。利益向上に資する施策として「顧客数を増やす」、「商品の在庫数の精度を上げる」、「無駄なコストを削減する」の3タイプの情報システムカードを与え、限られた予算・条件の中で、最適なバランスを考えた情報システムを選択する。さらに、「お弁当発注クイズ」で、より精度の高い発注数（品切れ、廃棄が少ない数）を競う。 <p>最後に、社会インフラとしてあらゆるところで情報システムが活用されていることや、SEの仕事の魅力を伝える。</p>	
	<p>ルール説明の後は、生徒主体でゲームに取り組む。質問は随時受け付ける。初めは座っていた生徒も、議論が活性化してくると立ちあがり肩を寄せ合い知恵を出し合う。</p>	
	<p>チーム対抗でカードゲームに取り組む。異なる学校の生徒達も、はじめはぎこちないが議論しながらゲームを進めるうちに自然と一体感が出てくる。（3校合同で実施したケース）</p>	

受賞理由

- 限られた授業時数の中で「情報システム」を学べると同時に、「情報システム」の重要性のみならず、多くの人の働きによって事業が成り立っていることへの理解が期待できる内容である。
- 育成したい能力が明確に位置づけられており、キャリア教育の視点が明確。グループでゲームに取り組む点も、チームワークを育てる観点から評価できる。
- 複雑・高度な内容であっても、ボードゲーム形式で競争も含めながら実施することで、生徒のモチベーションを保つ工夫がされている。
- 小学校から高等学校まで幅広く、各成長段階に合った課題解決型の学習プログラムを提供し、活用する学校が増えている。

【奨励賞（大企業の部）】

企業・団体名	株式会社野村総合研究所
プログラム名	便利を支える情報システムの秘密
活動の内容	<p>生徒がスーパーマーケットの1日店長となり、売上が落ちてきているお菓子売り場に、どんな新商品をおくべきかを考えるグループワーク形式の授業。6つの新商品候補の商品特性が書かれた「定性情報」カードと、スーパー来店者層（性別/年代別）、新商品候補の性別/年代別売れ筋情報の「定量情報」カードから、売れそうな商品を予測する。</p> <p>レジ（POSシステム）が単にお金を計算しているだけではなく、マーケティングに必要な情報が情報システムによって「自動処理」され、スーパーの売上向上に寄与するデータに「見える化」されるプロセスを実感し、情報システムの有用性を理解する。</p>



①
 班ごとに、発表シートを纏める様子。売れそうなお菓子と、なぜそれを選んだのか、理由を発表する。
 理由の裏付けを説明するために定量情報カードを計算したり、発表シートに記入をしたり、それぞれ役割分担を決めて、グループワークに取り組んでいる。



②
 システムエンジニアの社員講師（正面左）による授業。
 写真は、定量情報カードをどう活用したら良かったのか、答え合わせの解説。生徒とコミュニケーションをとりながら進めている。
 進行サポート役の野村総太郎（正面右・お面のCSR担当社員）と共に、台詞のかけあいにより、初めての社員でも参加しやすい体制。

受賞理由

- 児童・生徒に対して、自分と地域や社会との結びつきを意識させながら、実際の体験を積むプログラム。特に、レジやスーパーマーケットという身近な存在を題材に、情報システムや多くの人の働きによってビジネスが成り立っていることへの理解を促す内容となっており、その後の考え方を深めるきっかけとして貴重なプログラムである。
- 「定性情報」「定量情報」カード等を使い、ビジネスの見える化を実感できる体系的なプログラムとなっており、本プログラムを通じスーパーマーケットの業務が情報システムに支えられていることを理解できることは、子供たちに新鮮に受け止められると考えられる。
- 学校教育における位置づけもはっきりとしつつ進めている点、保護者の関心も喚起する工夫がある点で、深みや広がりも期待できる。
- 小学校から高等学校まで幅広く課題解決型の学習プログラムを提供し、活用する学校が増えていることは評価できる。

【奨励賞（中小企業の部）】

企業・団体名	特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (NPO Action for a Better International Community : 通称 ABIC)
プログラム名	豊富な国際ビジネス経験に基づいた 大学・大学院講座
活動の内容	ABIC の多彩な活動の中の一つに、大学・大学院での講座提供がある。商社、製造、金融、情報等々、様々な分野の出身者である ABIC の活動会員が“豊富な国際ビジネス経験”に基づき、それぞれの得意分野、専門性を生かして国際情勢等に関する授業（海外地域論や各種産業論等）を展開している。“グローバル社会に向けての 対応力向上に配慮した講義”や“世界情勢を知り、学びの必要性を理解させる内容の講義”を提供している。講義の企画は大学や大学院からテーマを指定される場合と、ABIC の大学講座コーディネーターが講義内容を提案する場合がある。オムニバス方式や、一人で講座を受け持つ、専任教員の講座を補完する、日本語と英語で同じ内容を講義する等、ニーズに応じた柔軟な対応が可能である。
	立命館アジアパシフィック大学での講義風景 <ul style="list-style-type: none"> ・講座名： “Global Automobile Industry”
	創価大学経済学部での講義終了後の ABIC 講師と受講生の 一コマ <ul style="list-style-type: none"> ・講座名：“Japan Asia Studies Program Business and Japanese People”

受賞理由

- 大学とビジネス界をつなぎ、実際に海外で業務に携わった経験を元に行われる講師の講演、講義は、内にこもりがちといわれる学生に広い視野を提供する取組として、また、グローバル人材育成という視点で極めて価値がある。
- グローバル化を身近なものとして捉える機会を効果的に提供しており、国際貢献等、21世紀型スキルが求められる現在の教育に与える意義は大きい。
- 非常勤講師によるオムニバス方式が中心であるが、講座ごとに担当コーディネーターを置くことで、学生の関心をひく講義内容の工夫、学校とも十分調整され、教育の面での効果も得られるよう大学のニーズに応じた柔軟な対応がなされている。

【奨励賞（地域企業協働の部）】

企業・団体名	ジョブスタディ http://www.job-study.jp/
プログラム名	企業の人事担当者が手作りで創る異業種合同セミナー「ジョブスタディ」
活動の内容	<p>「ジョブスタディ」は、企業側も学生に正面からぶつかり、「早期離職問題」を解決していこうという想いで、2005年に誕生、「本音」と「手作り」というコンセプトのもと、企業と学生が「働く意味」を語り合う双方向のコミュニケーションを実現してきた。</p> <p>スタート後も時代背景に応じて新しい企画を立案、2011年からは、学生の視野を中堅・中小企業へも広げてもらい、自身の価値観に合った企業選択をしてもらおうと、経済産業省近畿経済産業局などと協力し「ジョブスタディ・コラボ・かんさい」を展開。2012年からはエリアを拡大し、経済産業省関東経済産業局などと協力して「ジョブスタディ・コラボ・かんとう」を開始している。</p>



企業内開催のパネルディスカッションの様子



産官学連携プログラムでのグループワークの様子

受賞理由

- キャリア教育の最終段階で、社会に出る直前の学生が抱える幅広い課題について、多種多様な企業が理念を共有し、柔軟に対応している素晴らしい取り組みである。
- ジョブスタディの学生に役立つセミナーとして立ち上げ、目的、実施範囲が多様であり、参加企業及び参加大学の数は膨大でその成果は計り知れない。継続する仕組みもしっかりと構築されている点も評価できる。
- 採用企業側から早期離職率の高さをいかに食い止めるのかという地道な具体策は高く評価できる。このような効果についても、いずれ成果が出ることを期待したい。

【奨励賞（地域企業協働の部）】

企業・団体名	中高生夢チャレンジ大学実行委員会
プログラム名	中高生夢チャレンジ大学
活動の内容	福岡の大人たちが自分たちの手で力強い福岡の未来をつくろうと、福岡の企業やNPO、自治体や学校が協力して2012年にスタート。中高生は地元・福岡で夢にチャレンジし続ける“カッコイイ大人”の講師や、ちょっと先輩の福岡の大学に通う学生に手伝ってもらいながら、講義やワークショップを通して自分の創造力を発見する。福岡市の成長分野を講座に設定することで、福岡にあった次世代の人材づくりを地域全体で行うプロジェクト。
	<p>8月9日（金）～10日（日） 宿泊研修。1日目は初めて会う仲間ばかりで緊張している中、大学生スタッフの導きで、仮想の旅を通して創造力を見つけるワークショップに挑戦。2日目は発見した自分の創造力を活かし、仲間と一緒に未来のまちをレゴブロックを使って表現した。</p>
	<p>9月29日（日）の閉校式 ふりかえりワークで「未来の自分への誓い」を立て、修了証に書き込み。夢チャレでの経験や講師の言葉、仲間とのつながりで自己肯定力をつけ、仲間と一緒に夢への第一歩を踏み出した。</p>

受賞理由

- ワークショップを通じ中高生に自分の可能性や創造力を発掘させる等、形にしにくいことに真正面から取り組むとともに、異年齢交流など、学校の授業だけでは難しい分野について、踏み込んで実施されている。
- 講座をシリーズ化することにより、働くことについて、多様な観点から考える機会を提供している。
- 中高生の職業観を育み可能性を引き出す取り組みである点と、地域の特性を活かしたカリキュラムとテーマづくりが優れている点を評価したい。